

# 柿本国弘先生 但馬末雄先生

## 記念号によせて

柿本国弘先生と但馬末雄先生は、本年3月、本学を退職されました。両先生とも、本学に着任されて以来、長きにわたって本学の教育、研究、学内行政に携わってこられました。本学の中心メンバーとして大学の発展にご尽力くださったことに対して、心から感謝申し上げます。

柿本先生は岡山県のご出身で、大阪市立大学大学院経済学研究科博士課程を単位取得満期退学後、1973年4月に本学に着任されました。以来38年間、地域経済研究所所長、図書館長といった要職を歴任されるなど、大学運営にご尽力いただきました。また先生は、財政学、地方財政論、経済学などを担当され、教室では、小テストやレポートを重ねることを含めゆっくりと丁寧に授業され、また一人ひとりの質疑に応じるなど、いわゆる“参加型授業”の実践に努められました。ご研究面では、『経済学・現代経済の基礎理論』（昭和堂）、『内陸部開発行財政論』（八千代出版）、『現代資本主義と国家調整（岐阜経済大学研究叢書11）』（法律文化社）、『福祉財源消費税と税制・財政問題』（三恵社）など多くの著書と論文を発表されました。

但馬先生は中国東北部の旧大連市のお生まれで、大阪市立大学大学院経済学研究科博士課程を単位取得満期退学後、1979年4月に本学に着任されました。以来32年間、教務部長をはじめ大学運営にご尽力いただきました。先生は、商業経済論（後に流通経済論）、マーケティング論、経済学などをご担当され、“経済学という学問が学生個人個人の生活とどのように関連しているかについて分かりやすく解説し、そして企業活動や商店街の見学・活性化対策の試案づくりなどを自分たちの手で作成させること”に注力されました。先生は、教室や研究室で、また街中で学生と気さくにつきあわれるお姿を幾度となく目にいたしました。ご研究面では、商業資本論とサービス論を中心にご研究を進められ、『マルクスの商業資本論（岐阜経済大学研究叢書3）』（法律文化社）、『商業資本論の展開（岐阜経済大学研究叢書6）』（法律文化社）、阿部真也、但馬先生ほか編『流通研究の現状と課題』（ミネルヴァ書房）、経済学教育学会編『経済学ガイドブック』（青木書店）など多くの著書と論文を発表されました。先生は、上記の著書『商業資本論の展開（岐阜経済大学研究叢書6）』に

よって、1997年11月の日本流通学会全国大会において第1回日本流通学会賞を受賞されました。理論的な大問題に正面から取り組まれた素晴らしい成果と存じます。

このような両先生の在職中の多大なご功績に対しまして、本年4月に名誉教授の称号を贈らせていただきました。

なお、個人的にも、両先生とは、社会貢献活動として、大垣市商業近代化委員会大垣部会『大垣地域商業近代化地域計画報告書』（1982年）の作成や岐阜県シンクタンク『岐阜県産業のソフト化の現状と課題』（1985年）の調査研究で、ご一緒させていただきました。柿本先生とは、旧経済学部研究棟（11号館）時代に研究室も近く、よくお話を伺いました。但馬先生とも、当時本学の政治学担当教員であった中道寿一先生（現在、北九州市立大学法学部教授）とともに、よく街中の居酒屋に出かけるなど、楽しくおつきあいをさせていただきました。

このように公私ともに親しくさせていただいた両先生をお送りしたことは限りなく淋しいことです。今後とも後進へのご指導を賜りたくお願いするとともに、両先生の一層のご健勝とご活躍を祈念して、献辞とさせていただきます。

2001年11月

岐阜経済大学学長 谷 江 幸 雄  
岐阜経済大学学会会長